

# 九州地域 I C T 利活用調査研究会 平成 25 年度活動報告

平成 26 年 4 月

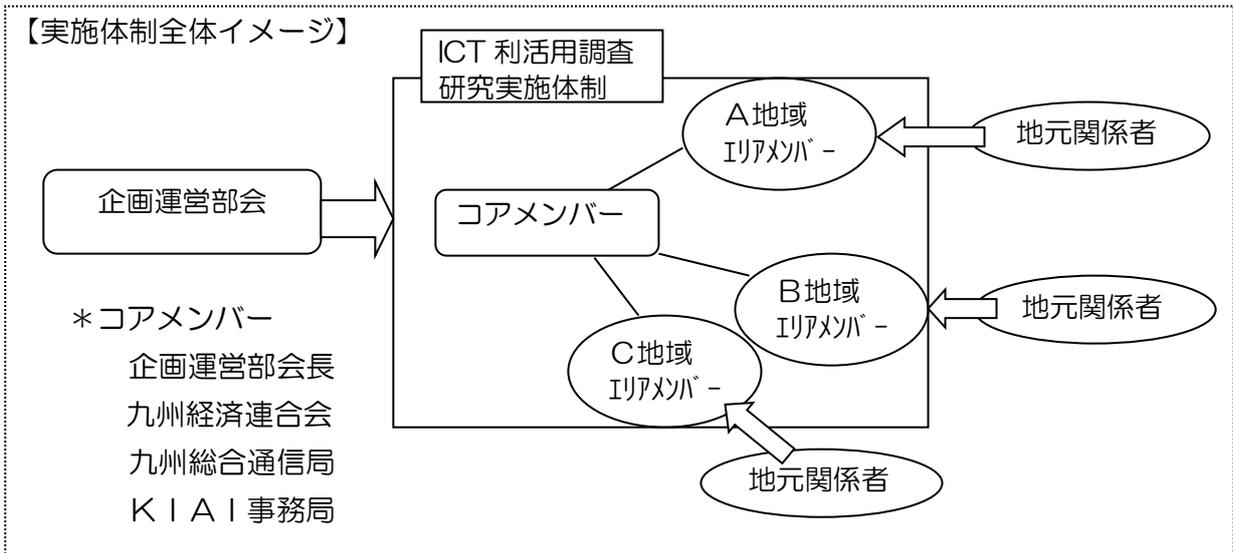
(一社) 九州テレコム振興センター (K I A I)

## 1. 活動趣旨

九州各地域において、ICT利活用に関する実態調査を進め、様々な現状課題を分析し、当該結果を今後の九州地域の更なるICT利活用促進に寄与させていくものです。

## 2. 実施体制

企画運営部会より「コアメンバー」「エリアメンバー」を選出し、具体的な活動を展開します。



## 3. 平成25年度実施対象自治体

- (1) 宮崎県児湯郡西米良村（平成25年度新規）
- (2) 福岡県田川郡添田町（平成24年度からの継続）
- (3) 熊本県球磨郡湯前町（平成23年度からの継続）

《参 考》

- (4) 鹿児島県肝属郡肝付町（平成22～24年度）
- (5) 佐賀県佐賀市富士町（平成22～24年度）

## 4. 西米良村活動結果

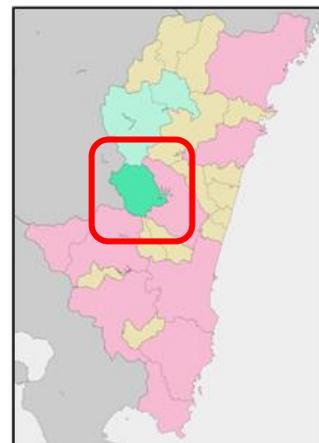
### (1) 西米良村概要

人 口：1,260 人 (H25.3.1 HP公表値)

世 帯：603 世帯 (H25.3.1 HP公表値)

高齢化率：41.75.% (H25.3.1 HP公表値)

＊平成24年度町内全域に渡る光ファイバー整備事業が  
終了（公設公営）



### (2) 活動報告

#### ① 西米良村 ICT 利活用勉強会発足式（平成25年6月24日（月））

- 28団体45名が参加
- KIAI 概要、九州地域 ICT 利活用調査研究活動について説明
- 平成25年度の西米良村における活動計画を説明
- 地域情報化に関する参加者相互による自由討議



【会場の様子】

#### ② iPad 体験イベント（平成25年7月20日（土））

西米良村の特別養護老人ホームである天包荘の納涼祭会場で、地域住民を対象とした iPad 体験コーナーを設置し、写真アプリ等を体験していただきました。



【体験コーナーの様子】

#### ③ 第40回夏祭り やまびこ花火大会の USTREAM 配信（平成25年8月3日（土））

村の最大イベントであり、夏の風物詩である夏祭り花火大会の様子を、西米良中学校3年生の協力を得て、初の USTREAM 配信を行いました。

当日だけで、ユニーク視聴者数が96人（合計視聴者数 183 人）、平均視聴者数20人という結果でした。（番組直接の「いいね！」は 161）また、西米良村の老人ホームである天包荘にはパブリックビューイングを設置し、入居者からも大変好評でした。

<http://www.ustream.tv/channel/yamabiko40> （現在は録画映像を配信中）



【配信の様子】

#### ④ タウンミーティング（8月19日（月））

下記の通り、タウンミーティングを実施しました。

日 時		対象組織
8月19日（月）	9:00～10:30	総務企画課 行政財政グループ 村民課 財務グループ 会計 会計室
	10:45～12:15	総務企画課 交流促進グループ 産業建設課 産業振興グループ 西米良村 商工会、湯た〜と
	13:30～15:00	福祉健康課 健康福祉グループ 診療グループ （西米良診療所） 子育て支援グループ 村民課 住民生活グループ 社会福祉協議会

#### 【総括】

携帯電話が入らない、コンビニがない、金融機関が少ない（郵便局、農協のみ）、ガソリンスタンドが休日営業していない等の生活面で僻地特有の不便さはあるが、Face to Faceの強いコミュニティがあり、住みやすいとの意見が多く聞かれました。

整備した“ほいほいライン”については、タウンミーティングを実施したのはサービス開始から約2ヶ月後でしたが、高齢者の利用に不安はあるものの、情報伝達ツールとしては便利であり、好評価との意見が多く聞かれました。無料電話機能等もあり、比較的スムーズに利活用浸透が図られているようでした。今後は防災面での活用に期

待している意見が多く聞かれました。

高齢者福祉、医療、子育て、就業場所、鳥獣被害等、中山間地域（過疎地）特有の課題はあるようですが、村全体として、現状の生活に大きな不満を抱えているように見受けられませんでした。



【タウンミーティングの様子】

### ⑤ インターネット教室（10～11月）

当初は公民館単位で初心者向けインターネット教室を実施する計画でしたが、“ほいほいライン”サービス導入後、区長等地域リーダーへの操作説明は実施したものの、住民を対象とした説明を実施していなかった役場からの要望もあり、“ほいほいライン”の操作説明をメインとし、説明終了後のオプションとして、iPadを活用したインターネット体験教室を実施することとしました。

役場職員同行で、2班構成で2か所の公民館にて同時開催し、“ほいほいライン”の操作がより具体的に理解できるよう、公民館相互で発着信をしながら“説明を行いました”。

また、“ほいほいライン”が有する大きな機能である「緊急通報」に関しては、実際に役場より緊急通報デモを流してもらい、“ほいほいライン”を活用した緊急時のとるべき行動について説明を行いました。“ほいほいライン”を活用したラジオ接続に関しても一定のニーズがあり、今後の課題と認識しました。

iPad体験についても、様々なアプリ操作を通じ、参加した高齢者の方にとって好評でしたが、西米良村のような中山間地域にお住まいの高齢者の方々が、このようなICT機器を具体的に導入するに際しては、何らかのサポート体制が必要になることもひとつの課題であると考えられます。

10月31日（木）（受講者：小川地区 6名、越野尾地区 8名）

11月 7日（木）（受講者：村所地区 6名、横野地区 4名）

11月14日（木）（受講者：上米良地区 8名、竹原地区 10名）

11月29日（金）（受講者：小八重地区 8名、板谷地区 10名）

※いずれも19：00～21：00



【ほいほいライン説明会の様子】

## ⑥ 山まつり（11月16日（土）～17日（日））

役場からの要請を受けて、山まつりの USTREAM 配信を実施しました。

会場隣接の湯たーとロビー、西米良村の老人ホーム天包荘、物産館の百菜館にはパブリックビューイングを設置し大変好評でした。合せて、iPad 体験コーナーも設置しました。

USTREAM 配信については、住民からはカメラの設置位置について「もっと高いところから映さないと、前に人が立つと、ステージが見えない」等のアドバイスもいただきました。



【山まつりの様子】

## ⑦ 九州地域 ICT 利活用シンポジウム（12月17日（火）～18日（水））

情報通信基盤整備で村内の光インターネットサービスを実現した西米良村において、整備された情報通信基盤を有効に活用した新たな地域振興への取り組みを支援していくため、地方自治体における「過疎力 × ICT の可能性」を幅広く論じていくシンポジウムを開催しました。

### 【開催概要】

1. 日時 平成 25 年 12 月 17 日（火）～18 日（水）
2. 場所 西米良村基幹集落センター 大ホール  
（宮崎県児湯郡西米良村大字村所 19）
3. プログラム
  - (1) 12 月 17 日（火）13:30～17:30

第一部：《基幹集落センター 大ホール》

基調講演 1：

「テレビ会議システムを有効活用した遠野市での取り組みについて」

岩手県遠野市 健康福祉課 保健医療担当部長 菊池 永菜 氏

光インターネットを活用したデモンストレーション：

西米良村立 村所小学校 ⇄ 熊本県 菊池市立 隈府（わいふ）小学校

村所小学校6年生（7名）、隈府小学校6年生（35名）

基調講演 2：

「シニア世代も光インターネットを使って楽しく生きよう」

長崎総合科学大学 理事・学長補佐 教授 横山 正人 氏

パネルディスカッション：

「過疎力 × ICTの可能性

～地域が有する魅力をどのように伝えていけば良いか～」

（ファシリテータ）

（一社）九州テレコム振興センター 事務局長 広岡 淳二

（パネラー）

NPO 法人 きもつき情報化推進センター 事務局長 有留 修 氏

（株）ウェブサイト 代表取締役社長 柳本 明子 氏

（有）よかよか通信（湯前町） 代表 椎葉 弘樹 氏

国民健康保険 西米良診療所 事務長 吉丸 和弘 氏

(2) 12月18日（水）10：00～12：00

光インターネットの利活用体験：

テーマ：「光インターネットを楽しみましょう」

・iPad 体験、光インターネットの体験

今回のシンポジウムでは、西米良村と友好都市であり、村のルーツとなっている菊池氏との縁で交流が行われている、岩手県遠野市、熊本県菊池市とのプログラムをICTと絡めて盛り込むことを意識しました。

その結果、西米良村でも整備された「テレビ電話情報端末（ほいほいライン）」を有効活用した遠野市における高齢者見守り・医療福祉に関する基調講演や、以前から交流に取り組んできた熊本県菊池市立隈府小学校と村所小学校との間で、テレビ会議システムを活用した遠隔交流授業を実施し、更なる交流を深めることができました。

遠野市の講演は、西米良村でも高齢者見守り・医療福祉にテレビ電話端末を活用したいという、西米良村からの強い要望を受けてのことで、講演終了後、「とてもいい刺激を受けた。近いうちに遠野市に行って、現場を視察したい」との意見を村役場よりいただきました。

また、小学校の遠隔交流授業については、参加した児童や先生からも好評でした。「ぜひ継続的な実施をしたい。事前準備や、システム構成等もっと簡単・シンプルにできない

か」との相談もいただき、研究会活動の今後の検討課題のひとつとして考えていく予定です。また、今回の遠隔交流事業は、毎年行われている村所小学校5、6年生による隈府小学校への交流訪問のフォローアップの意味合いを持たせたものでしたが、来年度は、交流訪問前の初顔合わせとして、この遠隔交流授業を実施することの提案も教育長や学校長からいただきました。



【シンポジウムの様子】

⑧ インターネット初心者セミナー（2月19日（水）） 湯前町連動企画

鹿児島県肝付町でも講演いただいた、青山先生による、インターネット初心者、挫折者を対象とした「暮らしの中のICT」セミナーを開催しました。

当日は20名程度の参加者があり大盛況でした。参加者からは、楽しかった、またインターネットにチャレンジしたいとお言葉をいただきました。また、実機を使った研修の要望もいただきました。



### ⑨情報モラルセミナー（3月11日（火））

教育委員会からの要望を受けて、中学生、保護者、教職員等教育関係者を対象とした情報モラルセミナーを開催しました。

講師には、全国で情報モラルセミナーを開催されている、ハイパーネットワーク社会研究所の協力をいただきました。



【情報モラルセミナーの様子】

### (3) 25年度の活動総括

西米良村の活動のなかで役場職員から、たびたび「過疎力」という言葉を聞きます。高齢化率が40%を超え、中山間地域で、過疎化がすすむ自治体ではありますが、少子高齢化という大きな課題に直面しながらも、過疎化を前向きにとらえ、過疎力という表現で、発想転換し地域づくりに取り組んでいます。その結果、子供たちやシニアの方がとても元気であり、若者たちも一致団結し地域活性化に取り組んでいます。

また、情報発信に関しては、新聞、ラジオ、テレビと各種メディアを上手に活用し、頻繁に露出もしており、いち早く Facebook を活用するなど、他の自治体の手本となるような活動をしています。このため、今年度は、新たに USTREAM を活用し、映像配信を軸とした更なる情報発信力向上を目指した取り組みを実施したところです。花火大会や、振興祭を対象とした初の映像配信の取り組みには、村内外から多数の視聴があり、その効果を受け、役場では来年度以降は夜神楽の配信等も検討されることとなりました。今後はこのような多様な情報発信活動に対して、企画面、技術面での支援を行いながら、村内への更なる人の呼び込み、そして更なる西米良ファンを増やすことにつなげていくような幅広い取り組みへと発展させていくことを検討していきたい、と考えています。

一方、各公民館での「ほいほいライン説明会」や「iPad体験教室」の結果から、村の中心部と、それ以外の地域でのICT利活用（に関する意識）の差があることが判明し、村内地域間におけるデジタルデバイド現象が起こっていることがわかりました。また、役場からの要望にもあるように、自治体職員のICTリテラシー、情報モラル向上も大きな課題のひとつとなっています。研究会活動としては、このような地域課題をどのように解決していくか、といった点と併せ、村役場にて検討を進めている「ほいほいライン」を活用した多様な行政サービスの展開に向けた幅広い支援活動等にも今後、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

## 5. 添田町活動結果

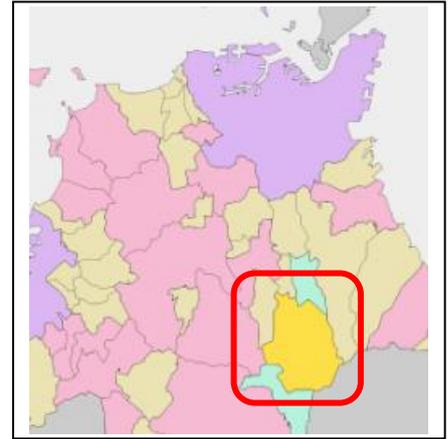
### (1) 添田町概要

人 口：10,909 人（H22 年度国税調査）

世 帯：4,215 （H22 年度国税調査）

高齢化率：32.7%（H22 年度）

\*平成 20 年度町内全域に渡る光ファイバー整備事業  
が終了（公設民営）



### (2) 活動報告

#### ① 第2回 添田町情報化推進勉強会開催（平成25年6月20日（木））

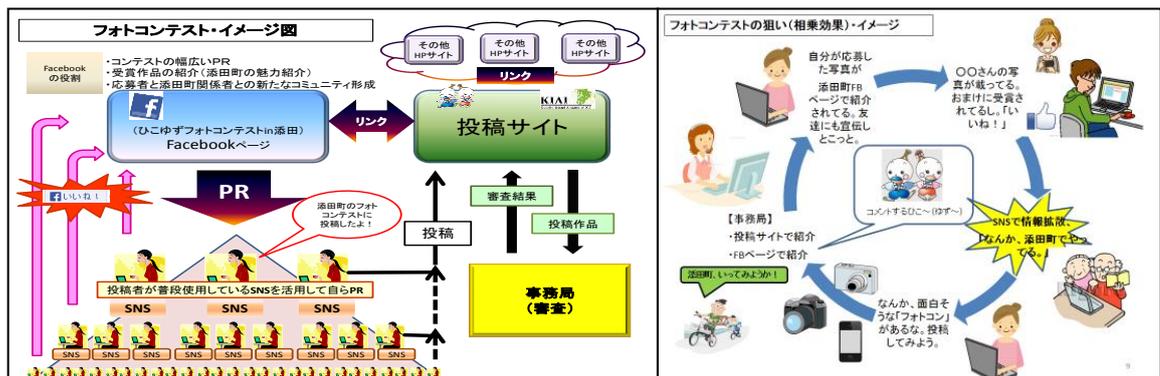
- 13 団体（34 名）が参加
- 平成 24 年度活動の報告  
インターネット体験教室、英彦山サイクルタイムトライアル大会インターネット配信、九州地域情報化シンポジウム in 添田、住民アンケート調査、タウンミーティング、九州 ICT オープンスクール in 添田 他
- 平成 25 年度活動計画（案）説明



【情報化推進勉強会の様子】

#### ② ひこゆずフォトコンテスト in 添田の実施（平成 25 年 7 月 7 日（日）～）

添田町におけるインターネットを活用した新たな情報発信の試みとして添田町の「ゆるキャラ」を活用したフォトコンテストを展開中です。フォトコンテストをインターネット上で実施し、キャラクターの知名度向上と併せて添田町の PR 及び新たな交流促進を図っていくことを目的としています。年間に複数のテーマを用意し、それぞれのテーマ単位での応募を集めます。第一弾は7月～8月（9月審査）で、第2弾、第3弾と3月まで実施予定です。今回はあくまでも試験的な取り組みであり、今後、本事業が定着できるよう、運営課題等も適宜検討しながら実施していくこととしています。

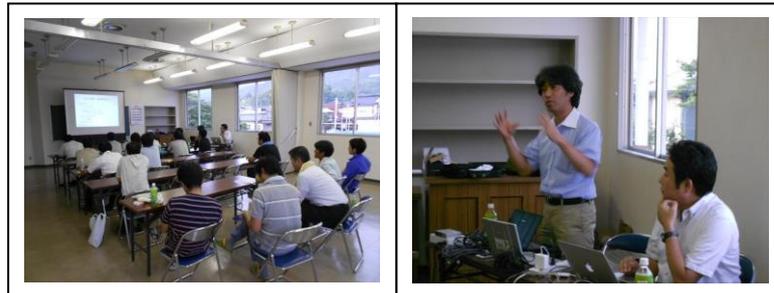




投稿サイト <http://www.kiai.gr.jp/photo-con/soeda/h25/concept.html>  
 Facebook サイト (PR用) <http://www.facebook.com/hikoyuzuphoto>

### ③ 情報発信ワークショップの開催（平成 25 年 8 月 9 日（金）～）

添田町商工会・青年部を対象とした情報発信者向けのワークショップを実施しました。第 1 回目は、主に動画をテーマとし、ソーシャルメディア上での効果的な動画コンテンツの作成・企画等について、他地域の事例紹介も交えながら行いました。また併せて、USTREAM 配信の簡単な技法についても紹介しました。ワークショップについては、今後とも定期的な開催を目指しています。



【情報発信ワークショップの様子】

### ④ インターネット体験教室（平成25年8月23日（金）～9月6日（月）：計7回）

受講者のレベルに応じ、1 教室内で3つのコース（初心者・初級偏・中級偏）の中から選択できるようにしました。さらに事前に受講希望者へ詳しく教えて欲しい内容も選択して頂き、マンツーマンによる授業を実施しました。

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| 8月23日（金）オークホール      | （受講者：13名） |
| 8月26日（月）英彦山地区総合センター | （受講者：6名）  |
| 8月27日（火）オークホール      | （受講者：12名） |
| 8月28日（水）中元寺公民館      | （受講者：5名）  |
| 8月29日（木）津野公民館       | （受講者：3名）  |
| 9月5日（木）添田町役場1F 会議室  | （受講者：7名）  |
| 9月6日（金）オークホール       | （受講者：9名）  |

※いずれも18:00～20:00



【インターネット体験教室模様】

⑤ 第23回 英彦山サイクルタイムトライアルインターネット配信（9月22日（日））

昨年度に引き続き、大会のインターネット配信を実施しました。今回は、リアルタイム中継、という観点だけではなく、町関係者の方々と一緒にナレーション（解説）入りの中継を実施しました。また、中継ポイントは昨年度と同様全4箇所でしたが、ひとつの中継ポイントは、大会実行委員会スタッフのみで運営してもらう等、少しずつ、本中継の運営業務を町関係者サイドへシフトさせていくような試みも行っています。さらに、中継画面を表示するディスプレイを、大会本部だけではなく、添田町道の駅（勸遊舎ひこさん）、老人介護施設（錦風荘）にも設置し、できる限り多くの地域の方の目にとまるような取り組みも行いました。



【インターネット配信模様】

⑥ 出張型インターネット利用相談業務（11月25日～11月29日：計3回）

体験教室まで足を運べないような方、あるいは教室参加に躊躇されているような方、さらには（教室設置のPCではなく）自身のPCにて教えて欲しい方、を対象に出張型の相談業務を試験的に実施しました。

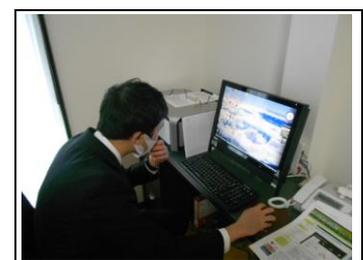
事前に希望者の募集、相談内容をお聞きし、役場職員と一緒に直接ご自宅へ出向き、相談内容の解決にあたりました。実施結果としては大変好評ではありましたが、今後、本事業を継続するに際しては、どのような運営形態が望ましいのか等を検討しつつ、関係者とも協議を進めていく予定です。

11月25日（月） 訪問件数：5件（3班編成）

11月27日（水） 訪問件数：3件（2班編成）

11月29日（金） 訪問件数：4件（2班編成）

※勉強会メンバーである九州通信ネットワーク（QTNet）様の支援もいただきました。



⑦ 添田町 ICT オープンスクール（11月15日発足）

昨年度、添田町で実施した九州 ICT オープンスクール（九州各県の大学生に対して地域課題に直接触れてもらい、学生の視点から様々な課題解決提案を企画してもらう KIAI の人材育成事業のひとつ）のスキームを流用し、同様な取り組みを添田町として、今後とも継続して実施できるよう、近隣の大学（九州工業大学、福岡県立大学）のご協力を頂き「添田版・九州 ICT オープンスクール」のキックオフを開催しました。現在、課題検討期間中で、2月5日に成果発表会を予定しています。



【添田町 ICT オープンスクール・キックオフの様子】

参加大学：九州工業大学（情報工学部）、福岡県立大学 各校6名、計12名の学生が参加（4名×3チーム編成）

活動概要：11月15日（金） オープンスクール発足・添田町現状課題の説明会、意見交換会を実施（添田町役場）  
 11月16日（土） 英彦山登山、添田町視察を実施  
 11月25日（月） 第一回検討会実施（福岡県立大学）  
 12月 3日（火） 第一回意見交換会実施（添田町役場）  
 12月 4日（水） 第二回意見交換会実施（英彦山地区総合センター・添田町元気倶楽部訪問）  
 12月 9日（月） 第二回検討会実施（福岡県立大学）  
 12月17日（火） 第三回意見交換会実施（添田町役場）  
 12月18日（水） 第三回検討会実施（福岡県立大学）  
 1月14日（火） 中間成果発表会実施（福岡県立大学）



## ⑧ 添田町 ICT オープンスクール成果発表会（2月5日（水））

2月には約2ヶ月課題検討をおこなった成果発表会を実施しました。町関係者および勉強会メンバー約33名の参加があり、学生のすばらしい成果発表内容、それに対する様々な意見等が飛び交い好評にて終了しました。

なお、この事業自体、両大学（九州工業大学、福岡県立大学）の協力を得て町の継続事業として引き続き実施していくこととなっています。



【成果発表会模様】

### 【成果発表内容】

#### <A班>

テーマ：「そえだんす」

概要：添田町での幅広い年齢層の交流、地域の高齢者の交流促進をより一層図っていくため、添田町独自のダンスの創作、発表会の開催を提案

#### <B班>

テーマ：「ボランティア団体「語らん会」

概要：ボランティア活動をしたいと考えている高齢者の力を上手く活用し、お年寄りがお年寄りを支えるボランティア団体の設立を提案

#### <C班>

テーマ：「やまぶし修行体験ツアー」

概要：若者の登山ブームに着目し、英彦山ならではの「山を知り、山に挑む」をテーマとした新たな観光プランを提案

※成果発表内容の詳細は KIAI の HP（下記 URL）に掲載しています。

<http://www.kiai.gr.jp/jigyuu/h25/jigyuu16.html>

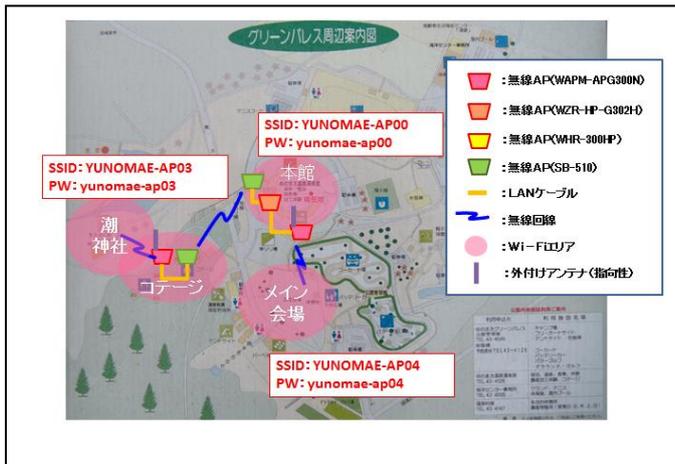
### (3) 25年度の活動総括

平成24年度より活動してきた添田町も2年目を迎えました。本勉強会における様々な活動も少しずつではありますが、地域関係者に浸透しつつあるところです。添田町最大のイベントである「英彦山サイクルタイムトライアル大会」のインターネット配信は、大会実行委員会における実施事業のひとつとして、今後継続して取り組んでもらえるような動きにつながってきており、また、少人数制ではありますが、マンツーマンで実施をしてきている「インターネット教室」も依然として住民からのニーズが高い状態であり、勉強会活動終了後も地域として何らかの形で存続できるような仕組みづくりを今後、検討していきたいと考えています。

そういった中、本年度からは新たに「Web投稿による自由参加型のフォトコンテスト事業」「出張型のインターネット教室」「添田町ICT オープンスクール」といった新たな取り組みも実施してきました。フォトコンテスト事業は、Web投稿という手法を活用した添田町からの新たな情報発信に向けた試験的取り組みであり、未だ現在の事業スキーム上では改善すべき点は多くあると考えられます。今後、来年度にかけて、勉強会活動の中で地域関係者とともに、内容をより深く協議し、どのような事業形態が良いのか等を幅広く検証していきたいと考えています。「添田町ICT オープンスクール」は、町役場担当セクションからも好評であり、「英彦山サイクルタイムトライアル大会」同様、勉強会活動終了後も、添田町における新たな地域情報化推進事業のひとつとして定着できるよう、本事業に対する町内関係者の一層の巻き込みを進めていきたいと考えています。

活動2年目を迎えた中、最終年度に向け、添田町に対して、どういった分野の地域情報化事業を根付かせ、地域情報化に向けての活動をよりアクティブにしていけば良いか、その大まかな方向性等が見えてきたと考えています。





【会場 Wi-Fi 回線構成】



【日本おっばいの絆HP】



【配信の様子（USTREAM）】



【パブリックビューイングの様子】  
（ 福寿荘 ）

③ USTREAM 活用によるローカルメディア発信（平成25年7月8日（月））

主に湯前町商工会会員を対象に、USTREAM 概要説明や、FaceBook の利活用した情報発信についてセミナーを実施しました。



【セミナーの様子】

《町と学校が一体となった湯前町ならではの ICT を活用した学校教育の展開》

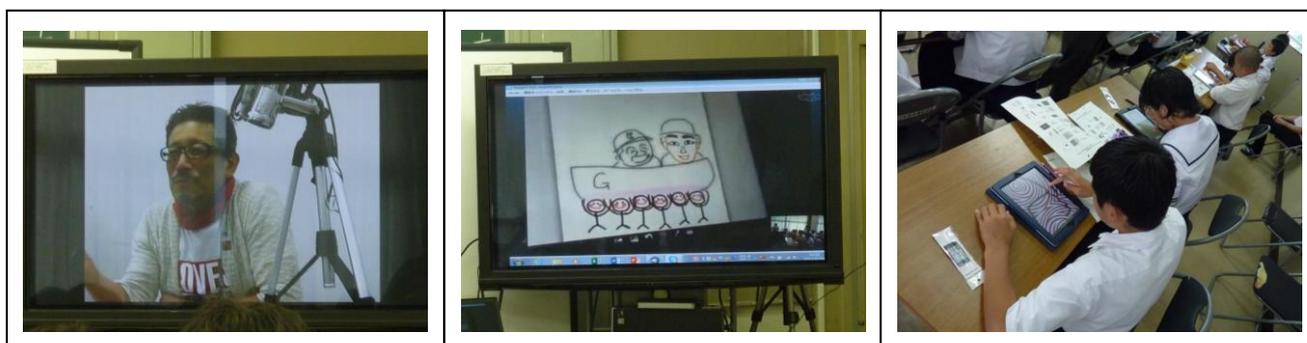
④ 湯前中学校及び湯前小学校と京都精華大学のオンラインマンガ授業技術支援（中学校：7月4日（木）、小学校：10月23日（水））

湯前中学校1年生40人（男子20人、女子20人）を対象とし、TV会議システムを活用したオンライン風刺マンガ授業を実施し、大学の先生が中学1年生に風刺漫画の描き方等を指導しました。

今回は中学校の美術の授業として実施し、40人の生徒がタブレット端末（iPad）を使って風刺漫画を描き、生徒が描いた作品はオンラインストレージサービス（Dropbox）で共有し、先生がタブレット端末（iPad）を使って添削指導しました。

#### <カリキュラム>

- (1) 事前学習（湯前中学校 河野先生）
  - ・風刺漫画に関する説明、作品紹介、町の風刺漫画の取組説明等
- (2) オンライン風刺マンガ授業（京都精華大学 篠原先生：110分）
  - ・前半 ⇒ 風刺漫画の描き方を教えていただく
  - ・後半 ⇒ 実際に風刺漫画を描き、完成した生徒数人がアドバイスをいただく
- (3) 仕上げ（湯前中学校 河野先生）
  - ・色塗り等で完成させ、学校廊下等への掲示
  - ・町の風刺漫画大賞へ応募（9月）



【湯前中学校の授業の様子】

さらに、湯前小学校6年生30人（男子15人、女子15人）を対象に似顔絵オンライン漫画教室を実施しました。テーマは、担任の後藤先生の似顔絵とし、学校の様々なシーンにおける後藤先生のエピソードを似顔絵、簡略画で紹介する、「私が知っている後藤先生の〇〇」としました。低コスト、継続的な実施をねらい、システムは極力シンプルにし、パソコンとビデオカメラ、ビデオ会議ソフト「ハングアウト」を使って授業を実施しました。



【湯前小学校の授業の様子】

今後はこのオンライン風刺マンガ授業を地域振興施策としてだけでなく、心豊かな子供たちを育成するために、漫画を活用した特色ある教育として学校の授業カリキュラムに取り入れ、継続的な実施ができるよう、町と大学と包括連携協定を締結することを目指し調整を進める予定です。

《情報発信力向上、情報発信コミュニティ形成に向けた取り組み》

⑤ 漫画フェスタの USTREAM 配信支援（11月10日（日））

町民による USTREAM 配信の技術支援や、パブリックビューイング設置支援を行う予定でしたが、iPad 体験コーナーの設置のみの実施となりました。



【漫画フェスタの様子】

⑥ インターネット体験・相談会（9月～：1回/月程度）

昨年度と同様に、公民館におけるインターネット相談会を、西米良村におけるインターネット教室と連動して実施しました。



【ネット相談会の様子】

- 11月 1日（金）古城公民館 （相談者：0名）
- 11月 8日（金）中猪公民館 （相談者：3名）
- 11月15日（金）野中田2公民館（相談者：4名）
- 11月29日（金）上村公民館 （相談者：3名）
- 12月 6日（金）上里3公民館 （相談者：4名）
- 12月13日（金）植木公民館 （相談者：4名）

※いずれも14：00～17：00

毎回の相談者は少数であり、固定的な顔ぶれでした。町が別途実施している生涯学習の受講者がフォローアップとして利用されていました。

来年度以降は、中央公民館で町主体による定例的の実施を役場に提案しています。

《町の各種情報関連施策実施支援》

⑦ 6次産業化推進活動支援（8月～：実施中）

町が主導する6次産業化推進活動について、主に情報発信に関連したワークショップ運営支援や町が運営している健康レシピサイト機能改善等の支援を行いました。ワークショップ運営支援にあたっては、長崎総合科学大学や熊本大学、佐賀大学の学生を参画させることで、取り組み自体の活性化を図りました。

【実施概要】

(1) 目的

- 1：地域資源を活用した新事業の創出
- 2：6次産業化の推進
- 3：地域おこしコミュニティの形成

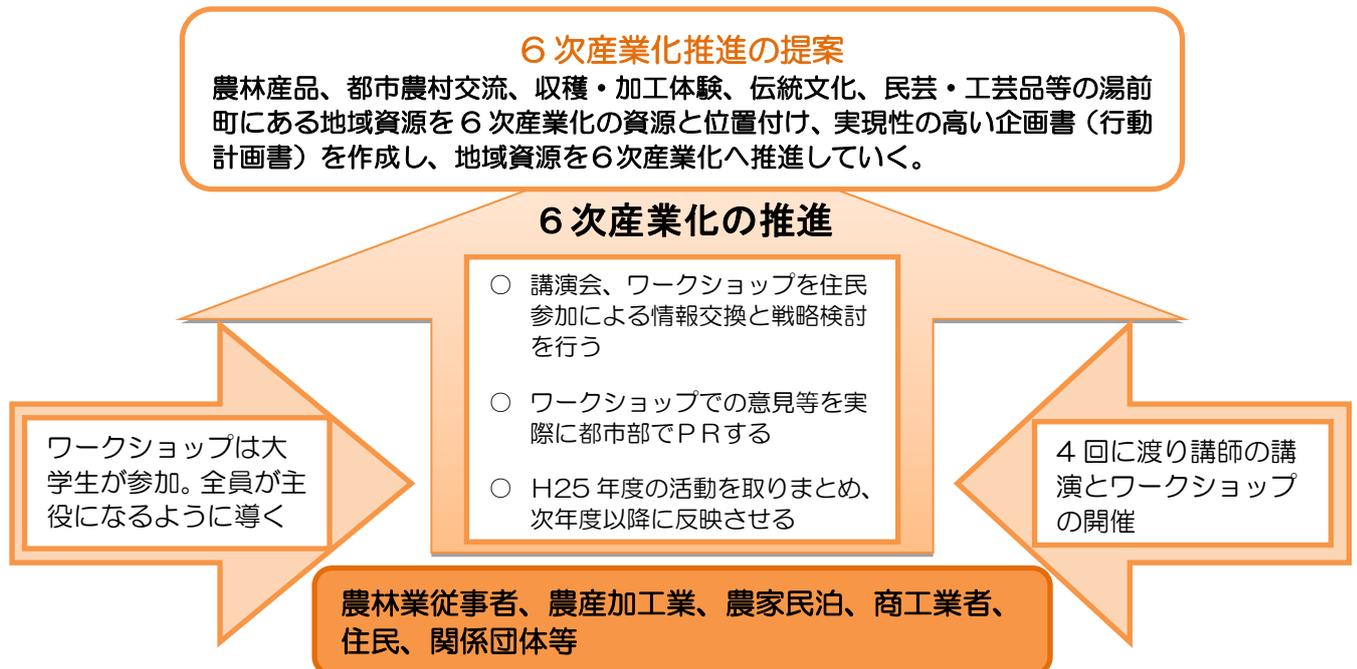
(2) 実施スケジュール

実施日	内容	備考
平成25年 8月26日（月）	大学生事前調査	農家民泊体験
平成25年 8月27日（火）	キックオフセミナー（講演1）、ワークショップ1	講師：桑原ナミ氏
平成25年 9月20日（金）	講演2、ワークショップ2	講師：高木奈穂氏
平成25年10月18日（金）	講演3、ワークショップ3	講師：永田靖智氏
平成25年11月22日（金）	講演4、ワークショップ4	講師：牛島清豪氏
平成25年11月23日（土）	視察研修	開催地：宮崎市 百姓隊
平成26年 2月 1日（土） ～2日（日）	出店体験	開催地：福岡市 自然食品ファーム内
平成26年 2月28日（金）	成果発表会	—

(3) 実施体制

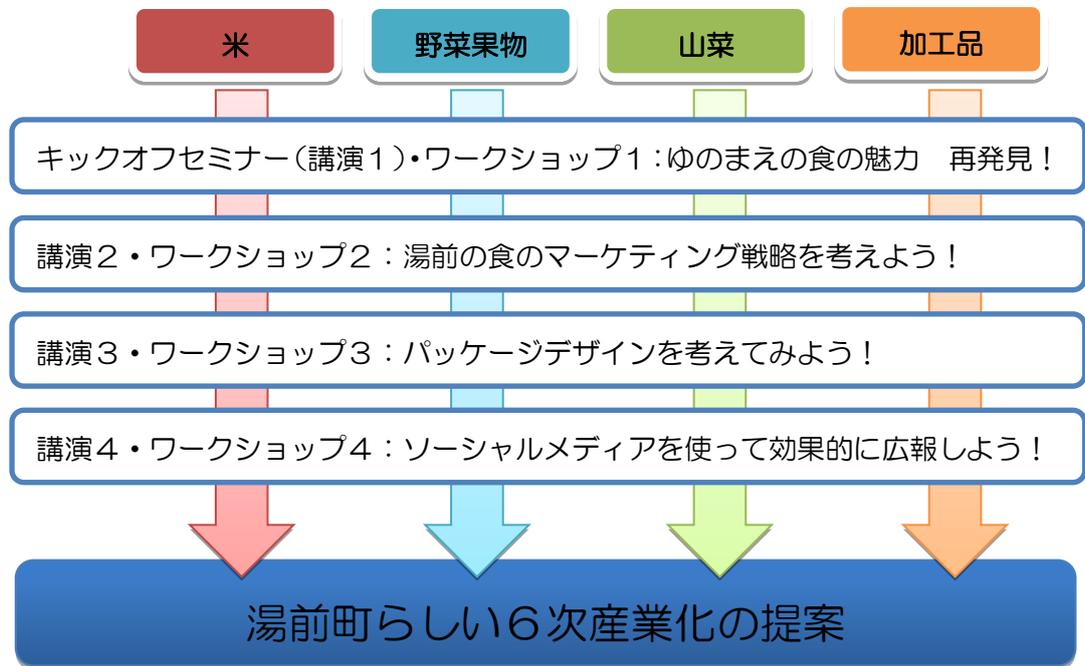
町内の6次化産業関連団体や地域住民をメンバーとし、活動を展開しました。会の推進役として九州内の大学生が参画しました。

【6次産業化プロジェクトのイメージ】



(4) キックオフセミナー及びワークショップ概要

全部で4回のワークショップを開催しました。キックオフセミナー時のワークショップで4つのテーマにグループ分けし、グループ単位で4回のワークショップに取り組み特産品試作品を提案しました。



【ワークショップの様子】



【試作品】

4回のワークショップをとおして製作した試作品について、十数年前から無添加無着色品等の製品を販売している、自然食品の店「ファーム」(福岡市)にて、試食及びアンケートを実施しました。

来店するお客さまは健康意識が高く、少々値が高くても安心安全な食材を購入される方々で、リピーターが多いといった特徴がありました。

当日は試作品の試食アンケートの他にも、湯前町特産品販売、親子味噌作り・おやき作り体験を実施しました。



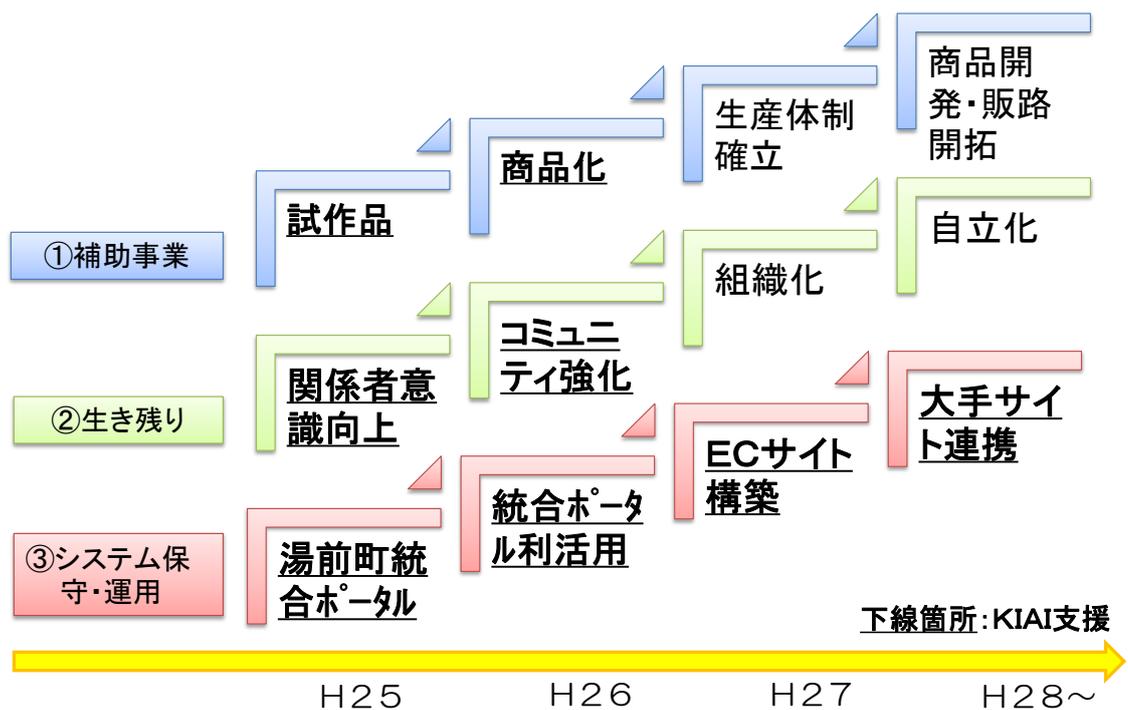
【出店体験の様子】

2月28日(金)にこれまでの取り組みと考案した試作品についての成果発表を行いました。事前に学生が概要をまとめた資料をベースに、役場職員、地域住民を交えて、発表資料を作成しました。



【出店体験の様子】

来年度以降は、試作品の商品化と合わせて、ECサイト構築や、将来的な組織化、体制整備に向けて、コミュニティ活性化を図っていくことを役場と検討する予定です。



### ⑧ 地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト支援

湯前町商工会の取組をICT利活用の観点から支援するため、打ち合わせに参加しました。ただし、試作品の作成までとなり、ICT利活用の機会はありませんでした。来年度は、役場の6次産業化の動きと連動した支援を検討します。

### 《そのほかの取り組み》

#### ⑨ インターネット初心者セミナー（2月19日（水）） 西米良村連動企画

鹿児島県肝付町でも講演いただいた、青山先生による、インターネット初心者、挫折者を対象とした「暮らしの中のICT」セミナーを開催しました。参加者数は12名程度。



【セミナーの様子】

#### ⑩ 人生百葉プロジェクト（スライドショーによる自分史の制作）（2月19日（水））

青山先生が取組まれている、人生百葉プロジェクトを開催しました。

このプログラムは自分の写真を元にスライドショーを作成し、自分史を作る取り組みです。認知症の予防や改善にも効果があります。

2時間程度の時間しかありませんでしたが、参加者の4人はそれぞれ旅行記を作成し最後には上映会を行いました。



【人生百葉の様子】

### (3) 25年度の活動総括

最終活動年度の湯前町では、ICT利活用の意識定着と、それを担っていく、ICTコミュニティの形成を目的とし、役場各部署と関係諸団体の橋渡しを意識して活動に取り組みました。

そういった中、今年度の大きな特色のひとつとしては、研究会活動の窓口であった情報施策担当の総務課以外の課との活動がより活発になったことがあげられます。中でも産業振興課とは、町が構築した“健康レシピサイト”の利活用の相談を受けたところから発展し、6次産業化検討の事務局を任されるなど、大きく関わることができました。この結果、当初相談を受けていた“健康レシピサイト”が大いに拡充でき、新たに食のポータルサイトへと機能アップを図ることができました。また、この他に、飲食業界の方を講師に招いての講演や、長崎総合科学大学、熊本大学の学生が新商品開発のワークショップに参加する等、役場職員だけでなく、地域各種団体との協同による活動ができました。これらの活動のなかでFacebookを活用するなど、町内だけでなく、町外の有識者、学生等も交えた湯前町における新たなコミュニティ形成へとつながっていく動きが実現できました。

このスキームは産業振興分野に限らず、医療福祉や教育等の様々な分野においても、活用することができると考えられ、今回の活動を通じ、町役場、各種地域団体、地域住民、学生（若者）を交え、課題解決という共通のテーマのもとICTに関するコミュニティを形成し、地域課題解決・活性化に取り組んでいくことの有用性を湯前町関係者に対して十分に示すことができました。研究会活動終了後も、このようなスキームは今後の様々な地域活動に大いに役立っていくものと思われまます。

また、研究会活動当初より行ってきた、オンラインマンガ授業も教育関係者から大変好評価を得ながら継続することができ、本取り組みに関しても、湯前町におけるICTを活用した湯前町ならではの新たな地域情報化事業のひとつとして、今後何らかの形で定着していくのではないかと考えられます。研究会活動として取り組んできたもうひとつの湯前町ならではの「ゆのまえ潮おっぴい祭り映像配信支援」に関しても、地域関係者と一体となった新たな情報発信の仕組みづくりがある程度構築できたのではないかと考えられます。このように研究会活動の目標のひとつとして掲げてきた「湯前町ならではの地域情報化事業」の定着に関しても、これまでの活動を通じ、一定の成果が出てきたものと考えています。

このため3月20日（木）に「湯前町ICT利活用勉強会」の閉会式を行い、今後の町の情報化推進については、町の有志によるコミュニティを軸に展開されることとなります。KIAIとしては今後も可能な限り支援活動を行っていきたいと考えています。



【閉会式の様子】